

デーヴォ ガイド



2022.9.5-11

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

5日 月曜

創世記



19:23 太陽が地の上に昇り、ロトはツォアルに着いた。
19:24 そのとき、【主】は硫黄と火を、天から、【主】のもとからソドムとゴモラの上に降らせられた。
19:25 こうして主は、これらの町々と低地全体と、その町々の全住民と、その地の植物を滅ぼされた。
19:26 ロトのうしろにいた彼の妻は、振り返ったので、塩の柱になってしまった。
19:27 翌朝早く、アブラハムは、かつて【主】の前に立ったあの場所に行った。
19:28 彼は、ソドムとゴモラの方、それに低地の全地方を見下ろした。彼が見ると、なんと、まるでかまどの煙のように、その地から煙が立ち上っていた。
19:29 神が低地の町々を滅ぼしたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼしたとき、神はロトをその滅びの中から逃れるようにされた。

ソドムとゴモラは不徳のゆえに滅ぼされました。アブラハムが正しいものを悪者と一緒に滅ぼすことのないようにと、神様にとりなしたゆえに、ロトと家族は救われましたが、しかし、妻は振り返ったので塩の柱になったとあります。これは単に振り返ったということではなく、慕っている様子も表されることばです。

ロトの妻はこの世を慕い戻ってしまう、いわゆる背教者の型なのです。塩の柱とはどのような現象が起きたかは分かりませんが、後にその場所にあった柱状のものが塩の性質を持っていたのでしょうか。ロトの妻の肉体がそのまま塩に変質したと考えた方が、むしろこの出来事の意味を受け止めやすいでしょう。不徳さえ共有していたこの世を慕い、またこの世

に帰ってゆくことにならないように、柱は私たちへの警告です。

またロトは、救われてはいても信仰を貫くことのできない、いわゆる肉の人の型です。自分の都合を優先して罪ある街での生活を選んでしまい、トラブルに巻き込まれました。またそこから逃げるようにと主に促されてもためらっていたのです。最後の最後に主に従って、滅びを免れたのです。彼が婿たちや妻を失ったのは、その妥協的な信仰の結果とも言えるでしょう。

ロトのような生き方になっている部分がないか、自分自身をよく吟味する必要がある、誰にでもありそうです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 火曜

創世記



19:30 ロトはツォアルから上って、二人の娘と一緒に、山の上に住んだ。ツォアルに住むのを恐れたからである。彼と二人の娘は洞穴の中に住んだ。

19:31 姉は妹に言った。「父は年をとっていません。この地には、私たちのもとに、世のしきたりにしたがって来てくれる男の人などいません。」

19:32 さあ、父にお酒を飲ませ、一緒に寝て、父によって子孫を残しましょう。」

19:33 その夜、娘たちは父親に酒を飲ませ、姉が入って行き、一緒に寝た。ロトは、彼女が寝たのも起きたのも知らなかった。

19:34 その翌日、姉は妹に言った。「ご覧なさい。私は昨夜、父と寝ました。今夜も父にお酒を飲ませましょう。そして、あなたが行って、一緒に寝なさい。そうして、私たちは父によって子孫を残しましょう。」

19:35 その夜も、娘たちは父親に酒を飲ませ、妹が行って、一緒に寝た。ロトは、彼女が寝たのも起きたのも知らなかった。

19:36 こうして、ロトの二人の娘は父親によって身ごもった。

19:37 姉は男の子を産んで、その子をモアブと名づけた。彼は今日のモアブ人の先祖である。

19:38 妹もまた、男の子を産んで、その子をベン・アミと名づけた。彼は今日のアンモン人の先祖である。

モアブ人はその後、たびたびイスラエルを苦しめました。その起源について書かれています。ルーツはイスラエルと一緒にあり、この民族もまた神様から見て尊い存在と言えるでしょう。ただし、そこに

は問題が潜んでいました。ロトと娘によって生まれた民族ということです。それは民族に問題があるのではなく、そこに至る不信仰に問題があります。

ロトは神様が逃げるように命じられた所とは違う土地に行きました。そこは良い土地柄ではなく、彼ら親子は人々を恐れ、洞穴に住まなければならなかったのです。その結果、ロトの意に反して娘たちが身ごもったのですが、家庭の信仰倫理の教育は親に負うところが大きいのです。

一件、しょうがないいきさつによって生じた結果に見えることでも、根底には不信仰や不従順が原因になっていることがあります。自分の状況を嘆く前に主に聞いてみましょう。その余裕がない場合もあるでしょう。そのときは先ず主に頼り、解決をいただいたら、そのことを忘れる前に、主に聞きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 水曜

創世記



20:1 アブラハムは、そこからネゲブの地方へ移り、カデシュとシュルの間に住んだ。ゲラルに寄留していたとき、

20:2 アブラハムは、自分の妻サラのことを「これは私の妹です」と言ったので、ゲラルの王アビメレクは、人を遣わしてサラを召し入れた。

20:3 その夜、神が夢の中でアビメレクのところに来て、こう仰せられた。「見よ。あなたは、自分が召し入れた女のために死ぬことになる。あの女は夫のある身だ。」

20:4 アビメレクは、まだ彼女に近づいていなかった。そこで彼は言った。「主よ、あなたは正しい国民さえも殺されるのですか。」

20:5 彼が私に『これは私の妹です』と言ったのではありませんか。彼女自身も『これは私の兄です』と言いました。私は、全き心と汚れのない手で、このことをしたのです。」

20:6 神は夢の中で彼に仰せられた。「そのとおりだ。あなたが全き心でこのことをしたのを、わたし自身もよく知っている。それでわたしも、あなたがわたしの前に罪ある者とならないようにした。だからわたしは、あなたが彼女に触れることを許さなかったのだ。」

20:7 今、あの人の妻をあなたに返しなさい。あの人は預言者で、あなたのために祈ってくれるだろう。そして、いのちを得なさい。しかし、返さなければ、あなたも、あなたに属するすべての者も、必ず死ぬことを承知していなさい。」

20:8 翌朝早く、アビメレクは彼のしもべをみな呼び寄せ、これらのことをすべて語り聞かせたので、人々は非常に恐れた。

20:9 アビメレクはアブラハムを呼び寄せて言った。「あなたは何ということ私たちにしたのか。私がいったい、罪となるどんなことをあなたにしたというのか。あなたが、私と私の王国に大きな罪をもたらそうとするとは。あなたは、してはならないことを私にしたのだ。」

20:10 また、アビメレクはアブラハムに言った。「あなたはなぜ、こんなことをしたのか。」

20:11 アブラハムは答えた。「この地方には、神を恐れることが全くないので、人々が私の妻のゆえに私を殺すと思ったのです。」

20:12 また、本当に、あれは私の妹、私の父の娘です。でも、私の母の娘ではありません。それが私の妻になったのです。」

20:13 神が私を父の家から、さすらいの旅に出されたとき、私は彼女に、『このようにして、あなたの真実の愛を私に尽くしてほしい。私たちが行くどこでも、私のことを、この人は私の兄です、と言ってほしい』と言ったのです。」

20:14 アビメレクは、羊の群れと牛の群れと、男女の奴隷たちを連れて来て、アブラハムに与え、またアブラハムの妻サラを彼に返した。

20:15 アビメレクは言った。「見なさい。私の領地があなたの前に広がっている。あなたの良いと思うところに住みなさい。」

20:16 サラに対しては、こう言った。「ここに、銀千枚をあなたの兄に与える。これはあなたにとって、また一緒にいるすべての人にとって、あなたを守るものとなるだろう。これであなたは、すべての人の前で正しいとされるだろう。」

20:17 そこで、アブラハムは神に祈った。神は、アビメレクとその妻、また女奴隷たちを癒やされたので、彼らは再び子を産むようになった。

20:18 【主】が、アブラハムの妻サラのことで、アビメレクの家すべての胎を堅く閉じておられたのである

アブラハムはエジプトでしたことと同じ過ちをしました。妻を妹と偽って保身を図ったのです。しかし主はその愛と、約束のゆえに守っていただきました。

主の約束をいただきましょう。主のご計画に沿って、主のみこころに従い、主とともに歩むことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 8日 木曜

創世記



21:1 【主】は約束したとおりに、サラを顧みられた。【主】は告げたとおりに、サラのために行われた。

21:2 サラは身ごもり、神がアブラハムに告げられたその時期に、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。

21:3 アブラハムは、自分に生まれた子、サラが自分に産んだ子をイサクと名づけた。

21:4 そしてアブラハムは、神が命じられたとおり、生後八日になった自分の子イサクに割礼を施した。

21:5 アブラハムは、その子イサクが彼に生まれたとき、百歳であった。

21:6 サラは言った。「神は私に笑いを下さいました。これを聞く人もみな、私のことで笑うでしょう。」

21:7 また、彼女は言った。「だれがアブラハムに、『サラが子に乳を飲ませる』と告げたでしょう。ところが私は、主人が年老いてから子を産んだのです。」

年老いたサラに子どもが生まれるとは、信じ難いことです。しかし現実には奇跡を体験した人は、信じることができるでしょう。私たちは地球上に生命が誕生したのを知っています。仮に地球外がその起源であったとしても、無から宇宙が生まれ、死の世界に生命が誕生したのです。これは宇宙の年数から考えても統計学的には、荒唐無稽とも言えるような奇跡です。

神様にみわざは信じることも可能ですし、また否定することも可能です。私たちは信じることもできますし、信じないこともできるのです。そこに信仰があります。

そしてまた私たちがそのような信仰の決断を迫られるときは、切羽詰まった状況であり、神様の奇跡

を求めないではられないような状況の時です。そしてそこにまた信仰があるのです。神様は真剣に求める者には、みこころと憐れみを与えてくださいます。

主の全能を信じましょう。またそれは主の御計画に沿ったものであることも受け入れましょう。その上で、願わずにはられないようなことなら、主に真剣に求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 金曜

創世記

21:8 その子は育って乳離れした。アブラハムはイサクの乳離れの日に、盛大な宴会を催した。

21:9 サラは、エジプトの女ハガルがアブラハムに産んだ子が、イサクをからかっているのを見た。

21:10 それで、アブラハムに言った。「この女奴隷とその子を追い出してください。この女奴隷の子は、私の子イサクとともに跡取りになるべきではないのですから。」

21:11 このことで、アブラハムは非常に苦しんだ。それが自分の子に関わることだったからである。

21:12 神はアブラハムに仰せられた。「その少年とあなたの女奴隷のことで苦しんではならない。サラがあなたに言うことはみな、言うとおりに聞き入れなさい。というのは、イサクにあって、あなたの子孫が起こされるからだ。」

21:13 しかし、あの女奴隷の子も、わたしは一つの国民とする。彼も、あなたの子孫なのだから。」

21:14 翌朝早く、アブラハムは、パンと、水の皮袋を取ってハガルに与え、彼女の肩に担がせ、その子とともに彼女を送り出した。それで彼女は行って、ベエル・シェバの荒野をさまよった。

21:15 皮袋の水が尽きると、彼女はその子を一本の灌木の下に放り出し、

21:16 自分は、弓で届くぐらい離れた向こうに行って座った。「あの子が死ぬのを見たくない」と思ったからである。彼女は向こうに



座り、声をあげて泣いた。

21:17 神は少年の声を聞かれ、神の使いは天からハガルを呼んで言った。「ハガルよ、どうしたのか。恐れてはいけない。神が、あそこにいる少年の声を聞かれたからだ。」

21:18 立って、あの少年を起こし、あなたの腕でしっかり抱きなさい。わたしは、あの子を大いなる国民とする。」

21:19 神がハガルの目を開かれたので、彼女は井戸を見つけた。それで、行って皮袋を水で満らし、少年に飲ませた。

21:20 神が少年とともにおられたので、彼は成長し、荒野に住んで、弓を射る者となった。

21:21 彼はパランの荒野に住んだ。彼の母は、エジプトの地から彼のために妻を迎えた。

女奴隷ハガルの子、イシュマエルはあまり性格の良い子ではなかったようです。母親ゆずりなのかもしれません。またアブラハムは家庭内のいざこざに対して正しい判断と指導ができなかったのでしょう。二人の子どもと二人の母親は相容れない存在になってしまいました。このこともまた不信仰の結果です。

神様は憐れみの方なので、イシュマエルとハガルを守ってくださいました。「あの少年を起こし、あなたの腕でしっかりだきない。」とのことばは、主がイシュマエルに対して、母親の愛情が注がれるようにとの御心であることがわかります。

様々な人間的な問題の中で、主は小さな子や弱い者を慈しんでくださることがわかります。主の愛をよく理解しましょう。そして主の愛に頼りましょう。ハガルのように、不遇な状況もありますが、主の愛は変わらないことを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





21:22 そのころ、アビメレクとその軍の長ピコルがアブラハムに言った。「あなたが何をしても、神はあなたとともにおられます。」

21:23 それで今、ここで神によって私に誓ってください。私と私の子孫を裏切らないと。そして、私があなたに示した誠意にふさわしく、私にも、またあなたが寄留しているこの土地に対しても、誠意を示してください。」

21:24 アブラハムは「私は誓います」と言った。

21:25 それから、アブラハムは、アビメレクのものたちが奪い取った井戸のことで、アビメレクに抗議した。

21:26 アビメレクは答えた。「だれがそのようなことをしたのか知りませんでした。それに、あなたも私に告げなかったし、私も今日まで聞いたことがありませんでした。」

21:27 そこでアブラハムは羊と牛を取って、アビメレクに与えた。こうして二人は契約を結んだ。

21:28 アブラハムは、羊の群れから、七匹の雌の子羊を別にしておいた。

21:29 アビメレクはアブラハムに言った。「今、あなたが別にしたこの七匹の雌の子羊は、何のためのものですか。」

21:30 アブラハムは言った。「私がこの井戸を掘ったという証拠になるように、七匹の雌の子羊を私の手から受け取ってください。」

21:31 それゆえ、その場所はベエル・シェバと呼ばれた。彼ら二人がそこで誓ったからである。

21:32 彼らはベエル・シェバで契約を結んだ。アビメレクと、その軍の長ピコルは立って、

ペリシテ人の地に帰って行った。

21:33 アブラハムはベエル・シェバに一本のタマリスクの木を植え、そこで永遠の神、【主】の御名を呼び求めた。

21:34 アブラハムは長い間、ペリシテ人の地に寄留した。

アブラハムは、その地の権力者であるアビメレクと対等に交渉しています。その力が大きかったことがわかります。そしてアブラハムはできるだけ平和に持っていこうとしていますし、また公正が行われるようにと工夫しています。

今後もアブラハムの子孫が様々な土地で生活しますが、これが神に従う者たちの基本姿勢です。神様は邪教の民や、攻撃的な民とは戦うように命じられますが、それ以外は平和であることを求められるのです。

私たちが主のみ心と計画に生きる者ですが、だからといって何をしても良いというものではありません。平和の主、愛の神にふさわしい方法を選びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





22:1 これらの出来事の後、神がアブラハムを試練にあわせられた。神が彼に「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は「はい、ここにおります」と答えた。

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」

22:3 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、二人の若い者と一緒に息子イサクを連れて行った。アブラハムは全焼のささげ物のための薪を割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ向かって行った。

22:4 三日目に、アブラハムが目を上げると、遠くの方にその場所が見えた。

22:5 それで、アブラハムは若い者たちに、「おまえたちは、ろばと一緒に、ここに残っていないなさい。私と息子はあそこに行き、礼拝をして、おまえたちのところに戻って来る」と言った。

22:6 アブラハムは全焼のささげ物のための薪を取り、それを息子イサクに背負わせ、火と刃物を手に取った。二人は一緒に進んで行った。

22:7 イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」彼は「何だ。わが子よ」と答えた。イサクは尋ねた。「火と薪はありますが、全焼のささげ物にする羊は、どこにいるのですか。」

22:8 アブラハムは答えた。「わが子よ、神ご自身が、全焼のささげ物の羊を備えてくださ

るのだ。」こうして二人は一緒に進んで行った。

22:9 神がアブラハムにお告げになった場所に彼らが着いたとき、アブラハムは、そこに祭壇を築いて薪を並べた。そして息子イサクを縛り、彼を祭壇の上の薪の上に載せた。

22:10 アブラハムは手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。

22:11 そのとき、【主】の使いが天から彼に呼びかけられた。「アブラハム、アブラハム。」彼は答えた。「はい、ここにおります。」

22:12 御使いは言われた。「その子に手を下してはならない。その子に何もしてはならない。今わたしは、あなたが神を恐れていることがよく分かった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しむことがなかった。」

22:13 アブラハムが目を上げて見ると、見よ、一匹の雄羊が角を藪に引っかけていた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の息子の代わりに、全焼のささげ物として献げた。

22:14 アブラハムは、その場所の名をアドナイ・イルエと呼んだ。今日も、「【主】の山には備えがある」と言われている。

アブラハムは信仰によって歩んできましたが、家庭の問題など、その根本的な姿勢に課題がありました。サラの提案に従って、女奴隷に子を産ませたり、妻を妹と偽ったりしたのです。それらは、自分の判断に頼ること、神様を信頼しきれないことからきていました。

ここで神様はアブラハムに、自分の判断を超え

た命令、神様を信頼しなればできないような命令を与えました。イサクをささげなさいというのです。

これは試験、すなわち試験です。アブラハムはこれまでの自分の問題を克服することができました。すなわちイサクをささげたのです。

そして神様は良いお方です。アブラハムの心を見て、彼の信仰を認めてくださいました。私たちも何か自分の歩みがうまくいかないと感じることもあるでしょう。もしかしたら、アブラハムのように自分の判断で神を信頼しないで生きているのかもしれない。

アブラハムのように、もっとも大切なものをささげましょう。神様がそれをご自分のものとして責任を持ってくださいます。そして守ってくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

